

生物資源学研究科 生物資源学専攻

○ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
<p>本研究科において、修士の学位を取得するためには、原則として2年以上の在学と所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文評価基準に基づく審査および最終試験に合格することを要件とします。博士の学位を取得するためには、原則として博士前期課程と合わせて5年以上の在学と所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文審査基準に基づく審査および最終試験に合格することを要件とします。修士論文および博士論文の評価は、複数の教員による審査で厳密に行われます。</p> <p>①食料・生命・環境に関する科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に洞察し、起こりうる問題を解決するための基礎的素養および専門的知識を身につけるとともに、変化する社会と急速に発展する生命科学技術に対応するため、必要な情報を収集、選択する能力を修得している。</p>	<p>本専攻のディプロマ・ポリシーを達成するため、食料・生命・環境に関する専門科目の履修と修士および博士論文の作成を行うことにより、幅広い視野から自己の研究を位置付けて「知の体系」を構築し、科学・技術の社会性と倫理性に関する考察力を養い、課題解決を実践する能力を育成します。そのため、次のようなカリキュラム・ポリシーを定めています。</p> <p>①食料・生命・環境に関する科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に洞察するための基礎的素養および専門的知識を修得する。変化する社会と急速に発展する生命科学技術に対応するために必要な情報の収集・選択能力を修得する一助として、主要な専門科目の講義は、一部、国内外の専門家を招聘する。 評価基準： 基礎科目、専門科目合わせて16単位以上修得すること。</p>	<p>基礎科目： 植物分子生物学 応用分子細胞生物学 遺伝資源学 生物生産環境学 微生物機能学 食品機能化学 構造生物学 生体機能分子工学 生物進化学 専門科目： 12科目 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>人間を育む多様な個性と背景に理解を示す学生、生物資源に関する科学分野の勉学と研究に強い意欲を持って持続的に取り組むことのできる学生、幅広い知識とコミュニケーション能力および様々な条件下での問題解決能力を修得する意欲のある学生、地域社会、日本、世界そして未来のために働こうとする意欲と希望を持った学生の入学を求める。</p> <p>入学者選抜の基本方針： 英語、専門科目、口述試験、出願書類の審査により総合的に判定する。 専門科目および口述試験では、志望する研究分野に関する基礎的理解について審査を行う。</p>
<p>②食料・生命・環境に関する諸課題を社会全体の中に位置付け、諸課題の特色、問題点、解決策をわかりやすく説明できる能力を修得している。</p>	<p>②食料・生命・環境に関する諸課題を学び、これらを位置付け、解決する能力を育成するために、専攻演習を実施する。専攻演習では、特に幅広い生命科学に関する最新の学術論文を精読し、論理的思考を養い、諸課題を自らの言葉でわかりやすく説明できるプレゼンテーション能力、質疑応答できるコミュニケーション能力を養う。 評価基準： いずれかの選択必修科目から4単位修得すること。</p>	<p>選択必修科目： 分子生物学専攻演習Ⅰ 植物資源学専攻演習Ⅰ 分子機能科学専攻演習Ⅰ 応用生化学専攻演習Ⅰ 古生物学専攻演習Ⅰ (詳細はシラバスに記載)</p>	

<p>③自ら課題解決を実践し、課題の位置付け、仮説、研究結果、考察を論理的な文章で発表するとともに、公開の場での対話能力を修得している。</p>	<p>③食料・生命・環境に関する課題を自ら解決する能力を修得するために、専攻実験を行う。修士論文作成の過程で、全構成員が参加する中間発表会を行い、自らの課題について、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力および討論する能力を養う。英語を用いた国内外の学会での発表を推奨し、自立できる人材の育成を目指す。 評価基準： いずれかの選択必修科目から8単位修得すること。</p>	<p>選択必修科目： 分子生物学専攻実験 I 分子生物学専攻実験 II 植物資源学専攻実験 I 植物資源学専攻実験 II 分子機能科学専攻実験 I 分子機能科学専攻実験 II 応用生化学専攻実験 I 応用生化学専攻実験 II 古生物学専攻実験 I 古生物学専攻実験 II (詳細はシラバスに記載)</p>	
<p>④博士前期課程（修士課程）においては、それぞれの専門領域における意義を十分に理解し、当該分野において有意な研究活動を実施し、科学論文の書き方を修得できている。</p>	<p>④博士前期課程においては、それぞれの専門領域における意義を十分に理解し、当該分野において有意な研究活動を行い、論文作成能力を修得する。 評価基準： いずれかの選択必修科目から2単位修得すること。</p>	<p>選択必修科目： 分子生物学専攻演習 II 植物資源学専攻演習 II 分子機能科学専攻演習 II 応用生化学専攻演習 II 古生物学専攻演習 II (詳細はシラバスに記載)</p>	
<p>⑤博士後期課程（博士課程）においては、広範で高度な専門的知識と最先端技術を修得し、広い視野を持つ自立した技術者・研究者として期待できる。</p>	<p>⑤博士後期課程においては、上記の講義、演習、学会活動、論文執筆活動を繰り返し実施することにより、広範で高度な専門的知識と最先端技術を修得し、広い視野を持つ自立した技術者・研究者を育成する。 評価基準： いずれかの選択必修科目から4単位修得すること。 学修成果の評価は、科目毎に成績評価の方法を設定し、シラバスに明示する。</p>	<p>選択必修科目： 分子生物学特別演習 植物資源学特別演習 分子機能科学特別演習 応用生化学特別演習 古生物学特別演習 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>人間を育む多様な個性と背景に理解を示す学生、生物資源に関する科学分野の勉学と研究に強い意欲を持って持続的に取り組み、高い水準で研究の遂行・発信ができる学生、幅広い知識とコミュニケーション能力および様々な条件下での問題解決能力を修得する意欲のある学生、地域社会、日本、世界そして未来のために、高度な専門知識をもって働こうとする意欲と希望を持った学生の入学を求めめる。 入学者選抜の基本方針： 英語、専門科目、口述試験、出願書類の審査により総合的に判定する。 専門科目および口述試験では、志望する研究分野に関する専門的な内容の理解について審査を行う。</p>

生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻（博士前期課程）

○ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、各授業科目、アドミッションポリシーの対応

ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	各授業科目	アドミッションポリシー
<p>①水圏の環境と生命の機能およびその保全、水圏資源生物の持続的利用ならびに食糧問題に関する幅広い視野と高度な専門知識を修得している。</p>	<p>①講義科目を通して、水圏環境の保全と水圏生物資源の育成・利用に関する幅広い視野および倫理観を身につけるとともに、専門分野の高度な専門知識を修得する。</p> <p>修了要件： 基礎科目の講義科目を12単位以上（所属する専門種目の基礎科目2単位を含む）、専門科目を6単位以上修得すること。</p>	<p>基礎科目： 【水圏生物生態学】 藻類学 水圏生態学 【海洋生物培養学】 海洋生物培養学 海洋生物育成学 【海洋生態環境学】 海洋生態工学 海洋微生物生態学 【海洋生物資源利用学】 生物資源利用学 食品機能化学 【海洋情報科学・社会科学】 海洋情報科学・社会科学 専門科目： 24科目 （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p>	<p>人間を育む多様な個性と背景に理解を示す学生、生物資源に関する科学分野の勉学と研究に強い意欲を持って持続的に取り組むことのできる学生、幅広い知識とコミュニケーション能力および様々な条件下での問題解決能力を修得する意欲のある学生、地域社会、日本、世界そして未来のために働こうとする意欲と希望を持った学生の入学を求めています。</p>
<p>②研究課題に関する論理的思考能力と学術論文の読解力を修得している。</p>	<p>②専攻演習では、専門分野の学術論文の内容を理解し、論理的思考を養うとともに、研究の成果を国内外で発表するため、プレゼンテーションとコミュニケーションの能力を身につける。</p> <p>修了要件： 所属する専門種目から4単位修得すること。</p>	<p>基礎科目： 【水圏生物生態学】 水圏生物生態学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 【海洋生物培養学】 海洋生物培養学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 【海洋生態環境学】 海洋生態環境学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 【海洋生物資源利用学】 海洋生物資源利用学専攻演習Ⅰ・Ⅱ 【海洋情報科学・社会科学】 海洋情報科学・社会科学専攻演習Ⅰ・Ⅱ （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p>	<p>入学者選抜の基本方針： 英語、専門科目、口述試験、出願書類の審査により総合的に判定します。専門科目および口述資源では、志願する研究分野に関する専門的な内容の理解について審査を行います。</p>
<p>③必要な実験・調査を遂行する能力と結果を解析する能力、研究成果をプレゼンテーションする能力と討論に必要なコミュニケーションの能力、科学・技術の社会性と倫理性に対する理解を踏まえて行動する能力を修得している。</p>	<p>③専攻実験と専攻演習では、専門分野の研究を遂行するために必要な実験・調査の手法と解析の技術を修得する。</p> <p>修了要件： 所属する専門種目から8単位修得すること。</p>	<p>基礎科目： 【水圏生物生態学】 水圏生物生態学専攻実験Ⅰ・Ⅱ 【海洋生物培養学】 海洋生物培養学専攻実験Ⅰ・Ⅱ 【海洋生態環境学】 海洋生態環境学専攻実験Ⅰ・Ⅱ 【海洋生物資源利用学】 海洋生物資源利用学専攻実験Ⅰ・Ⅱ 【海洋情報科学・社会科学】 海洋情報科学・社会科学専攻実験Ⅰ・Ⅱ （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p>	
<p>④研究の意義を理解し、結果を考察して科学論文を作成する能力を修得している。</p>	<p>④当該分野の研究課題に関連する既往の研究成果を踏まえた研究計画を立案して実践し、修士論文を作成する。</p> <p>修了要件： 指導教員および評価委員が修士論文の評価基準に基づいて総合的に評価する。</p>	<p>（上記科目の詳細はシラバスに記載）</p>	

生物資源学研究科 海洋生物資源学専攻（博士後期課程）

○ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、各授業科目、アドミッションポリシーの対応

ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	各授業科目	アドミッションポリシー
<p>①水圏の環境と生命の機能およびその保全、水圏資源生物の持続的利用ならびに食糧問題に関する幅広い視野と高度な専門知識、研究課題に関する論理的思考能力と学術論文の読解力、必要な実験・調査を遂行する能力と結果を解析する能力、研究成果をプレゼンテーションする能力と討論に必要なコミュニケーションの能力、科学・技術の社会性と倫理性に対する理解を踏まえて行動する能力、一連の研究成果を科学技術論文に取りまとめ、自立した指導的技術者・研究者として新たな研究を展開する能力を修得している。</p>	<p>① 高度な研究能力を育み、特別演習を通して当該研究分野だけでなく幅広い学術的知識を自ら獲得して独創的な研究を遂行し、博士論文を作成する。</p> <p>修了要件： いずれかの授業科目を4単位修得すること。また、審査委員（主査1名、副査2名以上）が博士学位申請論文の審査基準に基づいて総合的に評価する。</p>	<p>専門科目： 【水圏生物生態学】 水圏生物生態学特別演習 【海洋生物培養学】 海洋生物培養学特別演習 【海洋生態環境学】 海洋生態環境学特別演習 【海洋生物資源利用学】 海洋生物資源利用学特別演習 【海洋情報科学・社会科学】 海洋情報科学・社会科学特別演習 （上記科目の詳細はシラバスに記載）</p>	<p>人間を育む多様な個性と背景に理解を示す学生、生物資源に関する科学分野の勉学と研究に強い意欲を持って持続的に取り組むことのできる学生、幅広い知識とコミュニケーション能力および様々な条件下での問題解決能力を修得する意欲のある学生、地域社会、日本、世界そして未来のために、高度な専門知識をもって働こうとする意欲と希望を持った学生の入学を求めています。</p> <p>入学者選抜の基本方針： 英語、専門科目、口述試験、出願書類の審査により総合的に判定します。専門科目および口述試験では、志望する研究分野に関する専門的な内容の理解について審査を行います。</p>